

大学生ワークショップについて

1 実施概要

■ 実施の目的

次期基本構想・基本計画策定にあたり、10年後の区のあるべき姿や施策の方向性等について、若者の意見を聴取するため、大学生を対象としたワークショップを開催した。

■ テーマ

板橋区が若者にとって今後も住みたい・住み続けたいと
思われるために必要な施策の検討・提案

■ 参加者

板橋区役所インターンシップに参加した大学1～3年生 14名
半数の7名が板橋区内に在住・在学等の経験があった。

■ 実施日時・形式

実施日時

令和6年9月5日(木) 13～17時

実施形式

講義+グループワーク形式 計4時間

- 講義:総合計画及び政策立案について(EBPM、ロジックモデル、バックキャストイング)
- グループワーク:4名×2グループ、3名×2グループ

☞ 事前課題として

ワークショップ前に実施したインターンシップ内でのプログラム中(施設見学や庁舎事務の実習)においても、区の課題発見や現状把握の視点を意識するよう通知を行った。

2 グループワークの内容

取組内容

講義後、4つのワークを経て、テーマについてまとめた。

- ① 「卒業後も住み続けたいと思えるまちのイメージ」を考え、
- ② 「板橋区の現状の理解と住み続けたいと思えるまちのイメージのギャップ」を仮定し、
- ③ 「課題解決のため(ギャップを埋めるため)に必要な施策」を検討し、
- ④ 「①～③を振り返り、施策の有効性の理屈(ロジック)」を確認する

ワーク①詳細

「卒業後も住み続けたいと思えるまちのイメージ」を班ごとに考え、書き出した。

下図はワーク①にて頻出した単語についてまとめたものである。「災害」については、災害に強いまちであること、「交通」については、交通利便性がよいこと、「治安」については、治安が良いことが住み続けたいイメージとされており、それらの環境「整備」に対する意見が多かった。

卒業後も住み続けたいと思う区のイメージのテキストマイニング結果(頻出単語別)



注：青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞・形容動詞となっている。文字の大きさが大きいほど出現回数が多い。

資料：ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

■ ワーク②詳細

「板橋区の現状の理解と住みたいと思えるまちのイメージのギャップ」の仮定にあたっては、「地域幸福度(Well-Being)指標」を用いた。

📌 地域幸福度(Well-Being)指標

⇒市民の暮らしやすさと幸福感(Well-Being)を数値化・可視化した指標

- 主観指標(居住者へのアンケート調査から算出)
- 客観指標(各自治体の客観データ(オープンデータ)から算出)

の2つの指標からなり、都道府県・市区町村ごとに、偏差値としてまとめたもの。

ワークでは、偏差値が50より高いものを区の「**強み**」、50より低いものを区の「**弱み**」として、区にとっての現状と課題がどこにあるかを考えた。

■ ワーク③詳細

ワーク①②を受けて、①で設定した「卒業後も住みたいと思えるまちのイメージ」に向かうためには、②で整理した現状と課題に対して、その「課題解決のため(ギャップを埋めるため)に必要な施策」が有効であるかを検討した。

■ ワーク④詳細

ワーク①～③の内容を整理し、果たしてそれが本当に理屈(ロジック)が成り立っているかの確認を行った。調べた内容についてすべて行うのではなく、1～2個抜粋し、確認作業を実施した。

3 各班の発表まとめ

1 班

○住みたいまちのイメージ

便利で暮らしやすいまち

○区の現状と課題

①移動・交通

客観指標：51.2

⇒詳細を見ると、職場までの平均通勤時間の因子が低く、通勤時間が長くなる傾向があるのでは？

②買物・飲食

客観指標：48.0

⇒買い物施設の密度が足りない。公共交通の空白地帯が多く、移動の不便さに課題があるのでは？

★総じて移動環境に課題があるのではと仮定

○必要な施策

移動のしやすさを高める施策

○LUUP のようなシェアリングモビリティの普及・促進

⇒目的地へ最短距離でアクセスすることができれば、便利で暮らしやすいまちになるのではないかと。

2 班

○住みたいまちのイメージ

環境にやさしいまち

○区の現状と課題

①空気や水

主観指標：36.4

客観指標：57.4 (CO₂ 排出量/1人)

⇒数値上は、良い実態があるのに、区民はそう思っていない現状がある

②緑地へのアクセス度

客観指標：30.9

人口あたり公園面積

客観指標：40.3

身近に自然を感じる

主観指標：37.3

⇒身近に緑のある公園が少ないのでは？

○必要な施策

○PR・情報発信の強化

⇒板橋の環境は悪くないと、区民に周知し、イメージアップを図る必要がある。

○空き家率が56%に着目し、それらを活かして、緑を増やすことができないか。

⇒ますます CO₂ 減に繋がるし、もっと自然を身近に感じられるようになるのでは？

生活基盤が充実したまち

○区の現状と課題

- ①商業施設徒歩圏平均人口密度
客観指標：25.1
⇒生活圏内に商業施設が少なく、買い物難民が多いのでは？
- ②人口あたりの娯楽業事業所数
客観指標：46.9
⇒まちに楽しみがないのでは？
- ③駅・バス停徒歩圏人口密度
客観指標：25.4
⇒公共交通空白地域が多いのでは？

○必要な施策

- 商業支援とデジタル地域通貨の活用
⇒商店街の活性化、シャッター外の減少と地域ににぎわいをつくる
- 地域商業施設や人が集まるハコ(多目的アリーナ)をつくる
⇒まちに楽しみが増え、住んでいて飽きない。娯楽事業の増加も見込まれ、街の活性化につながる
- 電車やバスの増便などより使いやすい公共交通機関へ。
⇒区内の利便性増へ

自慢できる綺麗なまち

○区の現状と課題

- ①都市景観
主観指標：44.9
客観指標：67.5
- ②自慢できる都市
主観指標：44.9
⇒都市景観の客観指標が高いことから、恵まれた景観が強みのはずだが、都市景観と自慢できる都市の主観指標が低く、区民はそう思っていない現状がある。

○必要な施策

- フォトコンテストの実施
⇒綺麗なまちを撮る楽しみも味わいながら、まちの宣伝材料にもなる
- 公式 SNS の発信強化
⇒労力比較的かからず、簡単に周知できるのでは？

4 住みたいまちのイメージ一覧

「子ども・若者・子育て」

- 子どもでにぎわっている
- 子どもが成長しやすい
- 子育てしやすい
- 子どもの遊び場が多い
- 保育園・幼稚園が多いのが良い
- 子どもの医療費タダ

「医療・介護」

- 医療が受けやすい
- 介護施設が多い

「生活」

- 物価・家賃が安い
- 利便性が高い
- 交通のアクセスがよい
- 公共交通機関が多様
- 都心に出やすい

「イベント・コミュニティ」

- 伝統祭のある
- イベントが活発
- 活気ある
- 笑顔が多い
- 地域の繋がりが強い
- 区と地域の連携がとれている
- 娯楽がある
- にぎわいがある

「緑・自然」

- 公園など、ひろびろした場所
- 緑や公園が多い
- 空気がきれい
- イチョウ並木

「防犯・防災」

- 災害対策への対応や案が豊富
- 治安がいい

「まちづくり」

- 道路や環境が整備されている
- 道路が広い
- 街がきれい
- ユニバーサルデザインがある
- 坂が少ない
- 道が渋滞しない
- 歩いて買い物できる

「施設」

- 学校が充実
- 飲食店多い
- 商店街がある
- 商業施設が多い
- ショッピングモールがある
- にぎやかな商店街がある
- 美術館や図書館がある
- 公共施設が綺麗
- 良い施設(図書館、ホールがある)
- おしゃれして出かけたいたい所がある
- すてきな個人店
- レジャー施設が多い

「その他」

- おいしいものがある
- 職場に近い
- 実家に近い